

「医療専攻」たより



新潟県立新潟西高等学校 Vol.4 令和2年12月24日

医療業務に携わる人材（看護師・保健師・医療検査技師・診療放射線技師等）育成のための進学指導を行います。

→ 新潟大学医学部保健学科、新潟県立看護大学、新潟医療福祉大学、新潟青陵大学、長岡崇徳大学等の進学を目指します。

○8月21日(金) 13:20～15:30 医療講演会

対象:2年生医療専攻生11人

講師:佐藤 梓先生 (新潟医療センター 緩和ケア認定看護師)

生駒 美穂先生 (新潟大学医歯学総合病院 腫瘍センター医師)

演題:「緩和ケアについて～最後まで「その人らしく」を支える」

「緩和ケアの実際～ガンについて」

会場:新潟西高等学校 社会科教室

佐藤 梓 (さとう あずさ) 先生

佐藤梓先生は、新潟医療センターに入職、消化器外科・内科病棟を勤務され、2019年緩和ケア認定看護師の資格を取得されました。現在は認定看護師として院内活動と並行して、看護スタッフとしての業務も行い忙しい毎日を送られています。講演では、緩和ケア病棟の様子と緩和ケアでの大切な点を、実際の患者様の話に触れながらお話しいただきました。



生駒 美穂 (いこま みほ) 先生

生駒美穂先生は、新潟市民病院、白根大通病院などを経て現在新潟大学医歯学総合病院の腫瘍センター特任准教授として、腫瘍患者の緩和ケアに幅広く貢献されています。ガンのしくみや原因、その治療法、それにとまなう痛みの特徴、そして緩和ケアとはなにか、と幅広く医師の立場から説明してくださいました。麻薬は「人類が神様から与えられた贈り物」であり、それを使う治療への誤解や効能などのお話がとても印象的でした。



* 生徒の感想 *

一番印象に残っているのは患者さんの家族も「第二の患者」だということです。…私は、患者さんもその家族の方々にも、体と心の苦痛を和らげてあげられるような看護師になりたいと強く思いました。

○9月13日(日)長岡崇徳大学 看護師体験

例年、夏休みに実施していた信楽園病院での1日看護師体験は、このコロナ禍で中止となりました。かわって今年は長岡崇徳大学で看護師体験をさせていただくことができました。大学の先生方から事前にだしていただいた課題に取り組み、その課題を持って看護師体験にのぞみました。到着するとまず憧れの看護師ユニフォームに着替え、2グループに分かれて各実習室に向かいました。

「母子看護学」の体験では、クイズ形式で赤ちゃんの胎盤のしくみや誕生の瞬間の様子などを学びました。その後、赤ちゃんの心拍数の取り方、おむつ替え、抱っこの仕方などを体験しました。看護学部生(下中央の男子学生)からも指導していただき、初めは緊張していた専攻生たちもリラックスして楽しく取り組んでいました。



「成人看護学」の体験では、血圧計を使った測定の仕方を学びました。上腕動脈から聴診器で音を確認しながら収縮期・拡張期を測定するのは思った以上に難しかったです。丁寧につづを教えてもらい、測定できるようになりました。(右)



後半は大学構内を見学し、シミュレーション室などの整った設備にふれ、看護医療系大学への進学意欲をより高める貴重な機会となりました。

* 生徒の感想 *

この見学でより看護師への憧れが強くなりました。どの体験も、初めは難しく、音を聞くことや計測することができませんでしたが、先生達が優しく教えてくださったので、しっかりと測ることができました。半日ではありましたが、充実した体験学習ができました。